

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	16-058	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Health insurance, alcohol and tobacco use among pregnant and non-pregnant women of reproductive age. 出産可能年齢の妊娠女性・非妊娠女性における健康保険、飲酒、喫煙状況		
執筆者		
Brown QL, Hasin DS, Keyes KM, Fink DS, Ravenell O, Martins SS..		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2016 Sep 1;166:116-24. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2016.07.001.		
キーワード		PMID
アルコール、健康保険、妊娠、喫煙		27422762
要 旨		
<p>目的： 出産可能年齢の女性において健康保険の有無と飲酒・喫煙との関連を検証することにより、この年齢の妊娠女性と妊娠を考慮している女性の喫煙・飲酒行動と医療アクセスとの関連を検討する。</p> <p>方法： 12-44歳女性の国民代表サンプルを用いて、健康保険と過去一か月の飲酒・喫煙状況を(対象者の妊娠状況別に)調査した。対象女性(n=97,788)は、2010-13年の「薬物と健康に関する国民調査(National Survey of Drug Use and Health(NSDUH))」の参加者で、妊娠状況別に検査した。</p> <p>結果： 健康保険と喫煙・飲酒状況との関連は、妊娠の有無により有意に異なっていた(喫煙、飲酒共にP値\leq0.01)。妊娠女性では、健康保険を保有者は非保有者に比べて、飲酒の調整オッズが有意に低かった(adjusted odds ratio(AOR)=0.47, 95%信頼区間(95%CI)=0.27-0.82)ものの、喫煙は関連がなかった(AOR=1.14, 95%CI=0.73-1.76)。一方、非妊娠女性では健康保険の保有者は非保有者に比べて、喫煙の調整オッズは有意に低かった(AOR=0.67; 95% CI=0.63-0.72)が、飲酒のオッズは有意に上昇していた(AOR=1.23; 95% CI=1.15-1.32)。</p> <p>結論： 健康保険を通じて医療にアクセスできることが、妊娠期女性の飲酒行動抑制に有効と考えられた。しかし、喫煙行動の抑制は認められなかった。この結果は、出生前受診において喫煙妊婦を禁煙に導く機会を逸していることを示唆する。</p>		